



原木しいたけ(115号菌)が 発生しました

ハウス内では、大型のしいたけが発生しやすい環境を整えるため、水分や温度を管理します。

日野振興センターだより9月号で、本年度、県西部地域で5名の方々が「鳥取茸王」の生産を目指して取り組まれていることをお伝えしましたが、新設されたビニールハウスでは、多くのしいたけが発生し始めています。

しいたけづくりには2つの工程があることをご存知ですか？

最初の工程は、春、クヌギやナラの木にしいたけ菌を植え付け、冬までの間に木の中にまん延させる「ほだ木づくり」です。こうしてできたほだ木からは、冬、気温が下がるとしいたけが発生してきます。そのしいたけを高品質に仕上げる工程が「しいたけづくり」です。

「しいたけづくり」は、「鳥取茸王」が発生する大径で重いほだ木を、気温が下がってくる初冬に、伏せ込み場である森林からビニールハウスに入れ込む、大変な重労働から始まります。



発生し始めたしいたけ

水分管理は、ほだ木が乾いてきたら、表面が湿るくらいの水を5分から10分程度かけ、これを繰り返す行なうことで、しいたけを育てるための水分を供給します。

温度管理は、発生してきたしいたけの一つ一つに袋かけをして、一定温度で保湿することにより、じっくり大きく育てます。この時、足の太さが2.5cm程度以上のものにかけると、10%程度の確率で「鳥取茸王」になります。

このように、しっかり見守り、手



発生したしいたけへの袋かけ

をかけ、大切に育てることで、質の良い大きなしいたけを作ることができますが、「鳥取茸王」を作ることには大変難しいものです。

日野振興局では、先頃、一般財団法人日本きのこセンターの指導により、ハウス内ではほだ木を管理する方法やしいたけを発生させる方法、作業上の注意点などについて技術研修を実施したところです。

今後も、定期的に技術指導を行なうとともに、JAの協力を得ながら、販売・流通を推進し、原木生しいたけの生産拡大、消費拡大を図ります。

年末から日吉津村の「アスパル」に並び始めた「とっとり115」。みなさんも是非、原木生しいたけをご賞味ください。

問 日野振興局農林業振興課

電話：085917212018

FAX：085917212125

